

コース名：補講	
科目名：日本語能力試験 1 級 a	対象者：全留学生 (アジア人財「実践日本語」対応)
担当者名：眞野道子	開講時間：月 3・4 限
<p>◎ 授業の目的・達成目標</p> <p>日本語能力試験 1 級合格を目指して、問題演習を中心に実践力を養う。</p> <p>1 級の認定基準は、高度の文法・漢字 (2000 字程度)・語彙 (10000 語程度) を習得し、社会生活をする上で必要な、総合的な日本語能力を持つこととされている。つまり、普段の会話で使っている以上の、大学における学習・研究の基礎としても役立つような日本語能力が求められることになる。</p> <p>この授業では、主に文法・読解について 1 級レベルの日本語能力の育成を行う。文字・語彙・聴解については日本語能力検定 1 級 b (水 5・6 限) で扱うので、合わせて受講すればより効果的である。</p>	
<p>◎ 授業計画 (第 1～15 週 計 15 回)</p> <p>第 1 回：オリエンテーション・レベルチェック</p> <p>第 2 回：文法① (A と (言わん) ばかりに B、A さんがために B、など)</p> <p>第 3 回：文法② (A ではあるまいし B、A なしに B、など)</p> <p>第 4 回：文法③ (A であれ B、A がてら B、など)</p> <p>第 5 回：文法④ (A かぎりだ、A に (として) あるまじき B、など)</p> <p>第 6 回：文法⑤ (A もさることながら B、A にかかわる B、など)</p> <p>第 7 回：文法⑥ (A ばそれまで、A までもない、など)</p> <p>第 8 回：文法⑦ (A と思いきや B、A にたえない、など)</p> <p>第 9 回：文法⑧ (A かたわら B、A ながら B、など)</p> <p>第 10 回：文法⑨ (A うと (が) B、A ないものでもない、など)</p> <p>第 11 回：文法⑩ (A いかんでは B、A 極まりない、など)</p> <p>第 12 回：読解① (接続詞・指示代名詞)</p> <p>第 13 回：読解② (理由・内容一致)</p> <p>第 14 回：読解③ (筆者の考え)</p> <p>第 15 回：修了テスト</p> <p>* 状況によっては変更することもある。</p>	
成績評価：出席および授業への参加態度、課題、テスト等により、総合的に判断する。	
◎ 教科書 『パターン別 日本語能力試験 1 級 徹底ドリル』(アルク)	参考書 授業の進度に応じ、適宜指示する。
◎ その他注意すべき事項 特になし。	